

輸送包装懇話会 2020年度予定

	第 140 回 講演会	第 141 回 講演会/見学会	第 142 回 講演会/講演会	第 143 回 講演会
日程・時間	7月6日(月) 13:30~17:30	9月18日(金) 13:30~17:30	11月9日(月) 13:30~17:30	2021年1月29日(金) 13:30~17:30

※141回、142回のいずれかに見学会を開催する予定ですが、日程は変更となる場合があります。

※新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、延期等変更、中止となる場合があります。

2019年度の実績

例会開催日	テーマと講演要旨
第 136 回 講演会 2019年 7月5日(金)	<p>特 集：輸送とシステム</p> <p>テーマ 1：「RFID の現状と包装の役割について」</p> <p style="text-align: center;">講 師：大日本印刷株式会社 山田 隆男 氏</p> <p>RFID は商品管理に使われ、街中でも身近に見られるようになりました。RFID は複数のタグを一括読み取りできたり、ある程度離れていたり、また直接見えなくても読み取りができる利点があります。その RFID の基本をはじめ、近年の RFID に関する規格・諸制度の変更点や最近の RFID 活用事例、また経済産業省が「コンビニ電子タグ 1000 億枚宣言」、「ドラッグストアスマート化宣言」と題して、2025 年までにコンビニエンスストアやドラッグストアの商品に RFID を取り付ける取り組みやその課題、求められる包装の役割についてご講演いただきました。最新情報の説明もあり、大変参考になりました。</p> <p>テーマ 2：「日本の内航海運について」</p> <p style="text-align: center;">講 師：東海大学海洋学部 教授 合田 浩之 氏</p> <p>モーダルシフトと言うと先ず「鉄道」が浮かびますが、「海運」も重要な役割を担っており、「内航海運」にフォーカスしたご講演をいただきました。各輸送手段の特徴として国際輸送される貨物の重量当たりの貨物単価の違いや、現在の内航業界の貨物の構成、さらに輸送距離から見た船と営業用トラックとの輸送分担からは、荷主の利用の特徴がうかがえました。最近のモーダルシフトでは、新航路が紹介され、それぞれの拠点の持つ地理的な位置づけと陸送との役割分担と言った物流戦略との関係も説明され、日本の物流構造と物流戦略を知る、非常に有意義な情報でした。</p>
第 137 回 見学会 <中 止>	<p>第 137 回輸送包装懇話会 見学会は、9 月 12 日に(株) 日立物流バンテックフォワードینگ/成田航空センター、及び (株) JAL カーゴサービス/成田 を予定していましたが、台風 15 号の被害により見学を延期、また 3 月 5 日に再調整したものの今度は新型コロナウイルスの感染リスク回避のため、中止という判断に至りました。</p> <p>見学先をはじめ担当幹事ともども、苦渋の選択ではありましたが、2020 年度はより一層充実した見学会を企画したいと考えています。</p>

<p>第 138 回 講演会 2019 年 11月15日(金)</p>	<p>特 集：プラスチック問題と対応 テーマ 1：「変容の時、世界 廃プラどう動く」 講 師：株式会社パンテック 齊藤 剛 氏</p> <p>世界中で問題視されている廃プラ問題。日本は 2050 年までに新たな海洋汚染をゼロにする目標を示し、各国メーカーは挙ってプラごみ削減に向けた製品や製造システム、キャンペーン等を発表しています。今回株式会社パンテック様より、諸外国の廃プラ輸入規制や包装が抱えるリスクに対して、プラスチックリサイクルのあるべき姿や同社の技術ソリューションをお話いただきました。旧来の大量生産、大量消費による一方通行ビジネスから、SDG's や ESG に基づき、使用済の製品回収→再製品化、また原料化により繰り返し使用で資源を有効活用する「CIRCULAR ECONOMY」が求められています。目まぐるしく変化する廃プラ事情に対し、一企業ではなく互いにタイアップすることで各企業の強みをより強固に、また弱みを補い合う「ALLIANCE」で新たなリサイクルフローを創出する重要性を強く感じたと講演でした。</p> <p>テーマ 2：「持続可能な社会の実現のために『GREEN PACKAGING』」 講 師：大日本印刷株式会社 柴田 あゆみ 氏</p> <p>近年世界各国で海洋プラや気候変動などの環境問題に対する戦略や指針が出され、日本はプラスチック資源循環戦略を策定し、国家戦略方針として「3R+Renewable」を出しています。また官民連携で CLOMA が設立され、CLOMA ビジョンにより各企業の目標や取り組み指針になっています。このような中、大日本印刷株式会社様は、すべての製品に環境配慮を実施し、その上で生活向上と最適追求による価値向上を目指し、豊かな暮らしと持続可能な循環型社会を実現する「GREEN PACKAGING」戦略を掲げています。環境配慮では「資源の循環」、「CO2 の削減」、「持続可能な原料調達」を柱に取り組みされていること、またそれぞれに対する具体的な取り組みもご紹介いただきました。これからは環境配慮ありきで、その上に価値向上や差別化が構築される時代となり、そのために企業の垣根を越え、「共創」によって、循環型社会実現の土台を作る重要性を感じました。</p>
<p>第 139 回 講演会 2020 年 2月17日(月)</p>	<p>特 集：試験と規格 テーマ 1：「長振幅(ストローク)振動試験規格とその対応について」 講 師：国際計測器株式会社 深田 修 氏 ：TOTO株式会社 宮城 兼一 氏</p> <p>包装貨物試験は、物流上の各種ストレスから商品を守る重要な手段であり、その試験規格も時代の変化とともに見直されています。特に振動試験規格は、2016 年に改定された ISO 13355 の振動下限周波数が 3Hz から 2Hz に、また下限周波数への変曲点も 6Hz から 4Hz となり、振動試験装置に求められる最大振幅が増加しています。こうした試験規格の低周波数傾向は ISO 規格だけでなく ASTM や ISTA、MIL 規格、中国の GB/T 規格でも同様です。今回のご講演では、国際計測器株式会社様より、こうした振動試験の低周波数傾向にと必要な試験装置の最大振幅を実波形を交えて、また振動試験機の基本的な動作原理・構造から駆動方式別の可動周波数や荷重範囲などの特徴、さらに最新の試験装置の動向もお話いただき、また T O T O 株式会社様からは、輸送振動で発生した試験規格だけでは再現できない問題への活動事例をお話いただき、現場で応用できる多くの知識を得ることができました。</p>

テーマ2：「段ボール箱の静圧縮試験における破壊に至るまでの挙動と圧縮強度との関係」

講 師：キューピー株式会社

高山 崇 氏

段ボール箱の設計において、圧縮強度の計算は重要項目の一つです。その計算には従来からケリカット式、マッキー式、ウルフの式があり、日本ではケリカット式が多く使用されています。ご講演では、段ボールのエッジクラッシュ強度及び曲げ剛性の試験方法の説明があり、次にマッキー式の課題として、箱寸法により計算値と実測値に乖離が生じることが説明されました。そこで実験によって箱の破壊挙動が箱の側面を構成するパネル寸法によって、段ボールシートの圧縮強度であるエッジクラッシュ強度のみが影響する圧壊と、エッジクラッシュの他に曲げ弾性率が影響する座屈の2種類に着目し、それぞれの強度から新たな推定式を導き出した結果、マッキー式ではカバーできなかった領域でも測定値とほぼ同じ強度が証明されました。従来の圧縮強度推定式ではカバーできない寸法範囲でも、より正確な圧縮強度の算出が可能な式として、今後注目される研究であると思われます。

2018 年度以前の実績

開催回/日	テーマ	講 師
第 135 回 2019.2.1	特集：輸送 ①振輸送力確保を目的とした青果物段ボール箱の包装改善 ②保管中のケース含水率を把握するための含水率連続測定方法について	ホクレン農業協同組合連合会 米田 舞 氏 レンゴー(株) 中尾 善和 氏
第 134 回 2018.12.11	見学先：日産自動車(株) 本牧専用埠頭	
第 133 回 2018.9.14	特集：食品と輸送 ①振動試験の基礎と改正された ISO13355 および蓄積疲労について ②生鮮食品における包装と輸送の技術	エミック(株) 井下 芳雄 氏 農研機構 中村 宣貴 氏
第 132 回 2018.7.6	特集：海外の試験規格の動向 ①輸送包装試験 ISTA/ASTM の最新動向-1 ②輸送包装試験 ISTA/ASTM の最新動向-2	エクサーチ(株) 高木 雅広 氏 日本ビジネスロジスティクス(株) 小俣 一典 氏
第 131 回 2018.2.6	見学先：宇宙開発研究機構(JAXA) 筑波宇宙センター	
第 130 回 2017.11.30	特 集：検 疫 ①植物を輸出入する際の注意点（植物検疫制度） ②植物検疫と木材梱包	(一社)全国植物検疫協会 君島 悦夫 氏 横浜植物防疫協会 真崎 誠 氏
第 129 回 2017.9.15	特 集：流通と人材 ①宅配事業の現状と今後の事業戦略 ②コンテナ輸送のリスクと回避策	佐川急便(株) 川中子 勝浩 氏他 東京海洋大学 渡邊 豊 氏